

⑦若年層へ向けた戦略広報 ～わたしの“未来のまち”はこんな“まち” 図画コンクール～

受賞機関 静岡県 交通基盤部 建設政策課

キーワード 若年層へ向けた戦略広報、担い手確保、
3次元点群データ

全建賞審査委員会の評価ポイント

建設産業の“理解促進”と“担い手確保”に向け、「静岡どぼくらぶ」を立ち上げ、広報活動等を進めてきた。令和5年度は、特に若年層へ向けた戦略広報の取組として、新たに「わたしの“未来のまち”はこんな“まち” 図画コンクール」を開催。小中学生を対象に、「住みたいまち」の絵を募集し、優秀作品として8点を選出。建設業界の深刻な課題である担い手不足を抜本的に解決するため、小中学生に興味を持ってもらい、3次元点群データ等を活用して、子どもたちが思い描く未来のまちを動画化するなど、若年層に向けて効果的な広報を行っている点が評価された。

1. はじめに

静岡県では、平成29年に「静岡どぼくらぶ」を発足し、官民連携で建設産業への理解促進・担い手確保を目標に戦略的な広報を展開している。

これまで、静岡どぼくらぶの取組の一つとして、建設産業従事者、学生や一般の方まで幅広い層から建設関連の写真を募集するフォトコンテストを開催していた。本取組は非常に好評であったが、若年層の応募が少なく、今後の担い手確保に向けては、子どもたちを対象とした広報活動が求められていた。

2. 取組の概要

次世代を担う小中学生という若年層へ積極的にアプローチするため、令和5年度より新たに「わたしの“未来のまち”はこんな“まち” 図画コンクール」を開催した。

「わたしはこんな“まち”に住みたい」をテーマに、小中学生に身近な“まち”の未来を想像して描いてもらうことで、自分の暮らす市町、ひいては静岡県への愛着を育むきっかけとなることを期待して作品を募集した。



図画コンクールの募集チラシ

3. 取組の成果

小中学生が描いた作品はどれも夢のある“まち”が表現された力作ぞろいであったため、入賞作品の選定に非常に苦労した。

最優秀賞の作品については、静岡県の現地形を3次元点群データで表現した「VIRTUAL SHIZUOKA」内で、小中学生が描いた未来のまちが動き出す動画を作成した。また、社会インフラをカード化した「静岡どぼカード」やカレンダーを作成し、次年度の応募につなげるため、入賞者や県内小中学校に配布した。



3次元点群データによる動画化

取組2年目となる令和6年度の募集に当たっては、小中学校での出前講座と併せて図画コンクールに取り組んでもらうことにより、前年度の2倍以上となる662作品が集まった。

応募のあった学校や子どもたちからは、「楽しかった」、「インフラについて考えるきっかけになった」など、好意的な意見を多くいただいている。



出前講座と併せて図画コンクールを展開

4. おわりに

令和7年度も引き続き、小中学生を対象とした図画コンクールを開催予定である。

本取組にとどまらず、建設産業に対する理解促進や担い手確保につながるよう、今後も戦略的に広報を展開していく予定である。